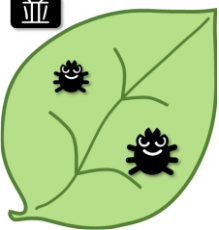
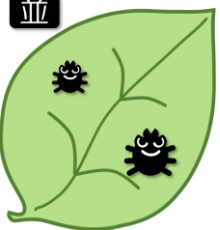
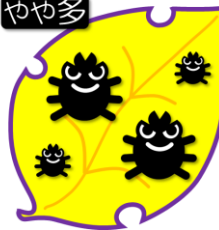
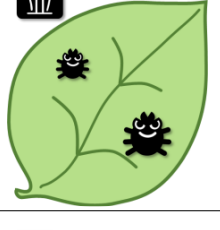
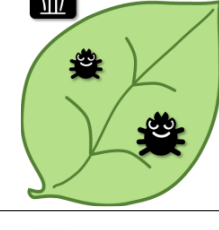
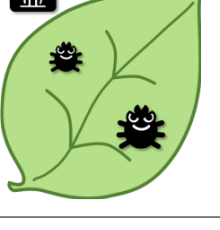
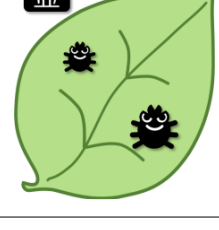


令和 6 年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第10号（果樹）

令和 6 年 9 月 19 日 発表（対象期間：令和 6 年 9 月 19 日～10 月下旬）

1-（1）		かんきつ病害虫の現況と予報（概要）																
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項															
かいよう病	やや少 	並 	●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。															
黒点病	並 	やや多 	●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●秋期に降雨が続く場合は追加防除を実施しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。															
ミカンハダニ	やや少 	並 	●果実への寄生により、外観品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。 ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。															
ミカンサビダニ	並 	並 	●裾なり、内なりの果実での発生に注意し、発生園では、9月下旬～10月上旬に防除を行いましょう。															
ナシマルカイガラムシ	並 	並 	●移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ●マシン油乳剤による越冬期防除の準備を行いましょう。															
ヤノネカイガラムシ	並 	並 	【現況・予報の区分について】 「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。 <table><tr><td>「多」</td><td>:</td><td>1 番目（最多年）と同程度以上</td></tr><tr><td>「やや多」</td><td>:</td><td>2 ～ 3 番目と同程度</td></tr><tr><td>「並」</td><td>:</td><td>4 ～ 7 番目と同程度</td></tr><tr><td>「やや少」</td><td>:</td><td>8 ～ 9 番目と同程度</td></tr><tr><td>「少」</td><td>:</td><td>10 番目（最少年）と同程度以下</td></tr></table>	「多」	:	1 番目（最多年）と同程度以上	「やや多」	:	2 ～ 3 番目と同程度	「並」	:	4 ～ 7 番目と同程度	「やや少」	:	8 ～ 9 番目と同程度	「少」	:	10 番目（最少年）と同程度以下
「多」				:	1 番目（最多年）と同程度以上													
「やや多」				:	2 ～ 3 番目と同程度													
「並」				:	4 ～ 7 番目と同程度													
「やや少」	:	8 ～ 9 番目と同程度																
「少」	:	10 番目（最少年）と同程度以下																
イセリアカイガラムシ																		
ツノロウムシ																		
ルビーロウムシ																		

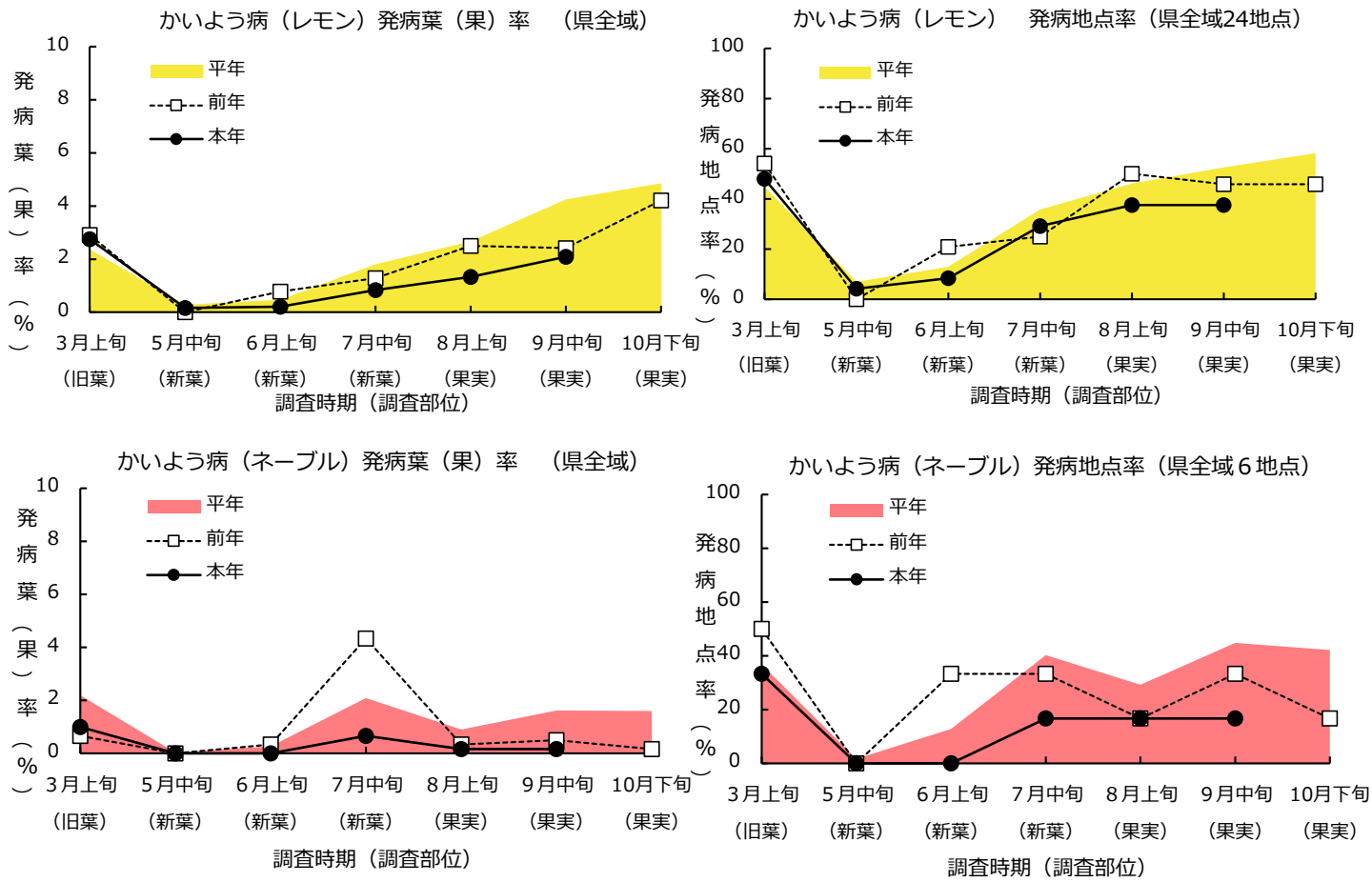
①かいよう病		現況	やや少	予報	並
予報の根拠		●巡回調査での発病果率は、レモンで2.1% (平年4.3%)、ネーブルで0.2% (平年1.6%) であり、合計1.7% (平年3.7%) と平年よりやや少ない発生でした。			
(+) : 多発要因		●発生地点率は、レモンで37.5% (平年52.5%)、ネーブルで16.7% (平年44.8%) であり、合計30.0% (平年51.0%) と平年よりやや少ない値でした。			
(±) : 平年並		●向こう1か月の気温は高い確率が80% (±)、降水量は多い確率が50%です (+)。			
(-) : 少発要因					

【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- ミカンハモグリガ食害痕から感染し、果実へ伝染する恐れがあるため、食害された夏秋梢は切除しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤 (コサイドなど) の散布を行う際には、クレフノン (希釈倍数:200倍) を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。



【巡回調査データ】



②黒点病	現況	並	予報	やや多
予報の根拠 (＋):多発要因 (±): 平年並 (－):少発要因	●巡回調査での発病果率は、ウンシュウで12.5%（平年14.5%）、レモンで27.4%（平年21.1%）、ネーブルで1.7%（平年12.1%）であり、合計17.7%（平年16.9%）と平年並の発生でした。 ●発病地点率は、ウンシュウ、レモンでやや少、ネーブルで平年並でした。 ●向こう1か月の気温は高い確率が80%（±）、降水量は多い確率が50%です（＋）。			

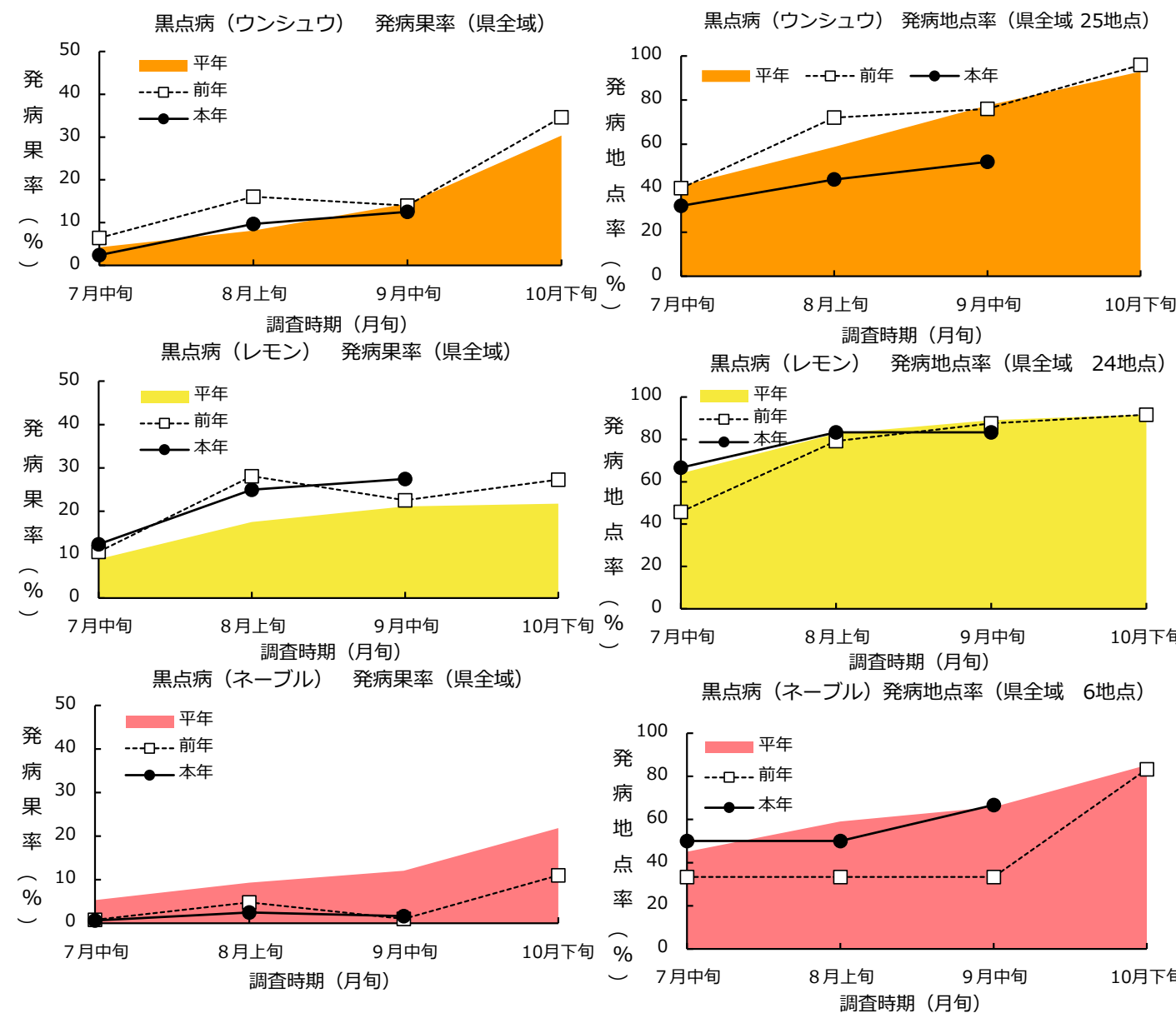
- 【防除上の注意事項】
- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
 - 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
 - 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

【巡回調査データ】

ウンシュウ発病果



レモン発病果



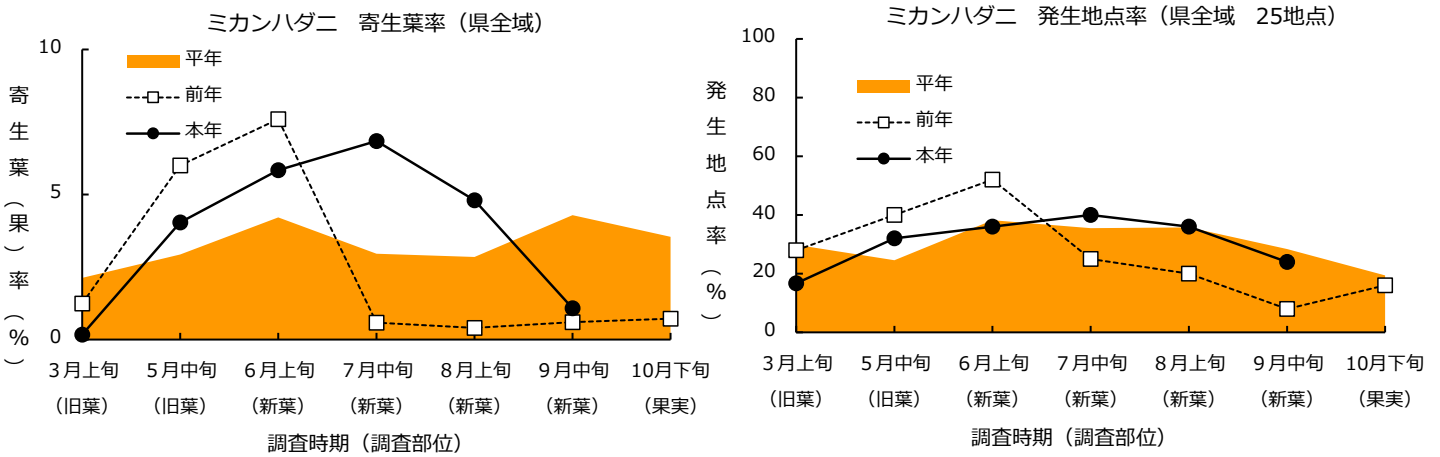
③ミカンハダニ	現況	やや少	予報	並
---------	----	-----	----	---

予報の根拠	●巡回調査での寄生葉率は1.1%（平年4.3%）であり、平年よりやや少ない発生でした（－）。
（＋）：多発要因 （±）：平年並 （－）：少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が80%（＋）、降水量は多い確率が50%です（－）。

【防除上の注意事項】

- 果実への寄生により、外観品質を損なうため、基幹防除を徹底しましょう。
- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

【巡回調査データ】

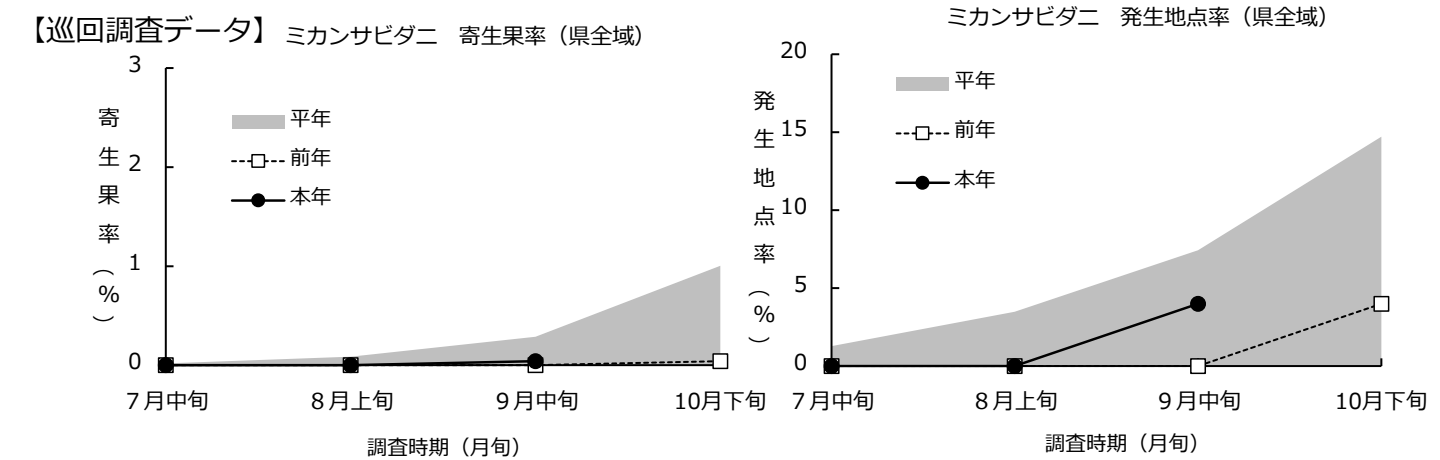


④ミカンサビダニ		現況	並	予報	並
予報の根拠		●巡回調査での寄生果率は、平年並でした（±）。			
（＋）：多発要因 （±）：平年並 （－）：少発要因		●向こう1か月の気温は高い確率が60％（＋）、降水量は多い確率が50％です（－）。			

【防除上の注意事項】

- 発生園では被害の拡大を防ぐために、9月下旬～10月上旬の基幹防除を徹底しましょう。
- 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】



①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

多

予報

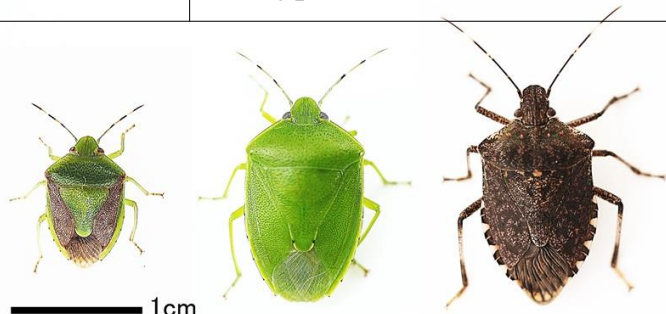
多

予報の根拠

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、9月第2半旬の時点で、全地点で多の結果となっています。

●7～8月にかけての発生のピークが過ぎ、県内全域での果樹カメムシ類の誘殺は減少傾向にあります。しかし、平年の同時期と比較すると、依然として発生は多い状況です。また、今後の気温は平年より高い傾向にあり、多数の飛来が継続する可能性があるため、ほ場の定期的な見回りをを行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。※誘殺数の推移については、10月末まで[フェロモントラップ調査データ](#)を「ひろしま病害虫情報」に公開するので、そちらを参考にしてください。

(+) :多発要因
(±) :平年並
(-) :少発要因



左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～9月第2半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
庄原市高野町	4555.0	多	176.8	482.3	45.9
庄原市東城町	1680.0	多	139.1	354.4	46.8
世羅郡世羅町	1885.0	多	322.5	555.1	237.4
東広島市安芸津町	6254.2	多	775.4	1693.6	381.9
福山市神辺町	2723.8	多	165.5	315.1	101.4
尾道市瀬戸田町※4	1265.8	多	38.1	34.0	39.3
呉市蒲刈町※4	2189.7	多	58.8	201.0	18.2

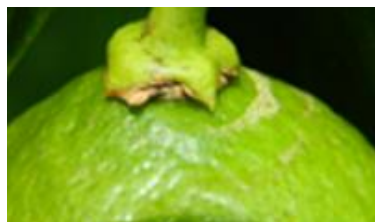
※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成26、令和2、4年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成26年以降で、平成26、令和2、4年を除いた年の平均値を示す

※4 蒲刈、瀬戸田の2地点については、平成27年からの調査開始のため、過去9年の平均とする。

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害



チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●第8世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、10月12日から18日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**

※表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第7世代	第8世代
平年より高い (+1℃)	9月18日	10月12日
平年並	9月18日	10月14日
平年より低い (-1℃)	9月18日	10月18日

※生口島アメダスデータに基づく

(広島地方気象台 9月12日発表、9月14日から10月13日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 向こう 1 か月の平均気温は高い確率が80%です。降水量は多い確率が50%、日照時間は平年より少ない確率が40%です(図1)。
- 向こう 1 か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです(図2)。

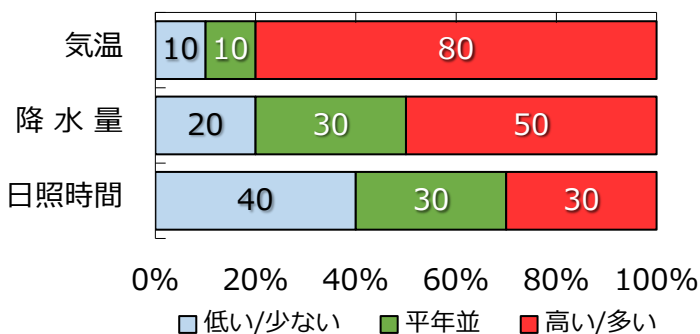


図1 向こう 1 か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

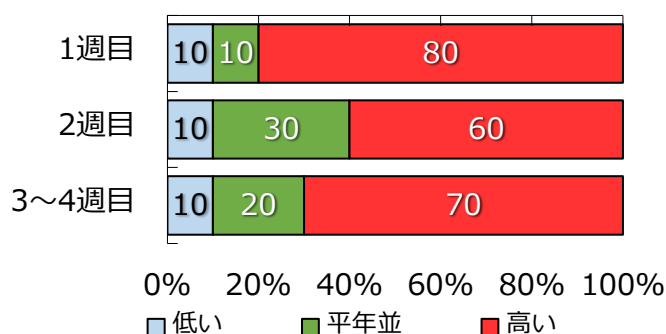


図2 向こう 1 か月の気温経過の各階級の確率 (%)

● PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

● スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和7年3月ごろです。